

地域学校保健委員会と連携し、 保健室経営の重点活動表を活用した健康教育活動 ～むし歯予防に関心をもつ子どもを目指して～

聖籠町立蓮野小学校 金子 明美

1 はじめに

聖籠町は、小学校が3校あり、その子どもたちが同じ中学校に進学している。しかも、小学校区ごとに幼稚園（こども園）がそれぞれ1園ある。このような教育環境ため、聖籠町研究協議会（町研）では、幼・小・中学校の12年間を見通した教育に力を入れており、「12年カリキュラム事務局部会」を設けて活動している。

健康の面では、町研の養護部会で小・中学校の養護教諭が頻繁に集まり、小・中学校の連携をとっている。また、聖籠町独自に「子ども健康相談室」を設けており、常勤の職員がこども園・小・中学校の子どもたちの心身の問題に対応している。しかし、小・中学校において独自の学校保健委員会は設置されていなかった。

しかも聖籠町は、18年度の3歳児の一人平均むし歯数（乳歯）は県平均（1.04本）より少ない0.44本だが、5歳児は県平均（2.95本）より多い3.10本となっている。また、12歳児（中学1年）の一人平均むし歯数（永久歯）では、県平均（0.99本）・全国平均（1.71本）より多い2.13本と非常に多い数値になっている。そのため、早急に聖籠町全体でむし歯予防について取り組むこととなり、19年4月に地域学校保健委員会を設置して、こども園から中学校まで一貫した保健活動を図るとともに、学校だけではなく地域を巻き込んだ保健活動を行うことにした。その会のメンバーは、表1のとおりである。

19年度は町研の養教部長をしていたため、副会長として地域学校保健委員会の運営にもあたった。そこで、聖籠町の健康課題であり、本校の健康課題でもある「むし歯の予防について」焦点をあて本研究に取り組むことにした。

2 研究の目的

地域（地域学校保健委員会）と学校（蓮野小学校）と共通した健康課題で取り組むことで、組織的な健康教育活動の有効性について研究していきたい。

3 研究内容と方法

- (1) 「保健室経営の重点活動表」を作成し、本校の「むし歯の予防」についての重点目標と具体的な方策・評価計画を明確にする。
- (2) 地域学校保健委員会での資料提供をする。
- (3) 地域学校保健委員会と連携をとり健康教育活動を進めていく。

4 実践の概要

- (1)「保健室経営の重点活動表」の作成 資料2参照
- (2)むし歯予防週間の実施 資料3参照
- (3)地域学校保健委員会への資料提供および運営 資料1参照
- (4)保健だよりなどで保護者にむし歯予防を啓発 資料4参照

<表1> 聖籠町地域学校保健委員会委員一覧 *1 会長

第1号委	聖籠町診療所勤務医	第7号委員	聖籠町保健師
第2号委	学校歯科医		聖籠町栄養士
第3号委	学校薬剤師	第8号委員	子ども健康相談員 *3
第4号委	聖籠中学校長(町研会長)*1 蓮野小学校長 山倉小学校長 亀代小学校長 蓮野こども園長(幼稚園) 蓮潟こども園長(〃) 亀代こども園長(〃) 聖籠こども園長(保育園)	第9号委員 第10号委員 第11号委員	聖籠町社会教育課長 聖籠町保健福祉課長 聖籠町学校教育課職員 *4 聖籠中学校PTA会長 蓮野小学校PTA会長 山倉小学校PTA会長 亀代小学校PTA会長 蓮野こども園愛児会長 蓮潟こども園愛児会長 亀代こども園愛児会長
第5号委	聖籠中学校養護教諭 蓮野小学校養護教諭 (町研養教部長)*2 山倉小学校養護教諭 亀代小学校養護教諭 (町研養教副部長)*3	第12号委員	区長代表
第6号委	学校栄養職員	*2 副会長 *3 幹事 *4 事務局	

資料1

聖籠町地域学校保健委員会の開催について ~保健だよりより抜粋~

6月28日に第一回の聖籠町地域学校保健委員会が開催されました。

これは、聖籠町のこども園から小・中学校の12年間の子どもの健康課題について、医療関係者(診療所医師・学校歯科医・学校薬剤師)・園代表者・学校代表者・保護者代表者・保健関係者(栄養士・保健師・養護教諭)・町関係者が集まって、話し合われました。そこで、今年度は、むし歯予防と肥満予防について町全体で取り組むことになりました。



平成19年度 保健室経営の重点活動表

聖籠町立蓮野小学校

金子 明美

(児童数300人)

【重点目標】 歯磨きを習慣化することでむし歯予防に関心をもつ。

【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価計画】

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況 (10/10)	年度の達成状況と次年度の方策
成果活動	生活アンケートで毎日歯を磨くと答えた人を85%以上にする。	生活アンケートの結果より毎日歯を磨いたと答えた人を A 85%以上 B 75%以上 C 74%以下	A: 95%の人がほとんど毎日歯を磨くと答えている。	A: 93%の人がほとんど毎日歯を磨いていると答えた。確実に1日3回磨いているかどうかを調査したい。
教育活動	5・6年生の保健指導でむし歯予防について話をする。	A 5・6年生の2学年で話をする B 1学年だけ話をする C 話をしなかった	C: 話をしなかった。	B: 5年生の保健指導で話をした。次年度は、他の学年でも話をできるように計画をしたい。
運営活動	歯磨きチェックをして確実に歯磨きを行い、給食後の歯磨きを徹底をする。	給食後毎日歯磨きをする人が A 90%以上 B 80%以上 C 79%以下	A: 95%は、給食後毎日歯磨きをしている。	A: 95%は、給食後に毎日歯磨きをしている。3・4・5・6年生はそれぞれの階の特別教室を利用しているため級外の教師による歯磨きチェックをしている。もっと自発的に歯磨きをするように工夫していきたい。
活動	むし歯予防週間に正しい歯磨きの方法を習得するために歯磨き教室を企画運営する。	歯磨き教室を A 全学級で実施 B 6学級で実施 C 5学級以下で実施	A: 全学年で実施	A: 全学年で実施 むし歯予防週間で実施した。もっと早い時期に指導してもらいたいと担任から要望があったので次年度は4月に計画したい。
活動	家庭や地域との理解と協力を得るために地域学校保健委員会でむし歯に関する資料を提供し、協議していく。	A 2回協議する B 1回協議する C しない	B: 1回協議をする。	A: 2回協議する。 次年度もむし歯を重点課題として協議していくことになったので、資料提供をしていきたい。
活動	むし歯の治療完了者が昨年度より高くなるように担任の声かけや保健だよりで啓発する。	A 5回以上 B 3回～4回 C 2回以下	B: 3回	A: 5回 保健だよりに4回載せた。 学級懇談会のとき担任から話題にもらった。

資料 3

むし歯予防週間実施計画

1 実施内容

① 学級指導（6月4日～7月3日）

対象学年	題材名	ねらい
1・2年生	歯の王子（第一大臼歯）をたいせつにしよう	永久歯に生え替わる大切な時期で特に第一大臼歯は、むし歯にかかりやすいことを知り、歯にあった磨き方をしてむし歯を予防する。
3・4年生	むし歯を防ごう	むし歯の原因を知り、歯にあった歯の磨き方をする。
5・6年生	歯肉炎を予防しよう	歯肉炎になる理由を知り、自分の歯にあった歯磨きの仕方を身に付ける。 ＜ 歯肉の健康カードを活用 ＞

本校の実態では、2年生から永久歯のむし歯が急増加する傾向にあり（資料4のグラフ参照）、生えてすぐの第一大臼歯のむし歯患者も多くいる。しかも、高学年になると歯肉の腫れがある子どもがいて歯肉炎になり患する恐れがある。その予防には、自分の歯にあった歯磨きを習慣化することが大事である。自分にあった歯磨きは、むし歯予防にも通じるので高学年は、指導の題材を「歯肉炎を予防しよう」とした。そこで、歯科衛生士と打ち合わせをし、学級指導のねらいを上表に設定した。講和を15分・カラーテスターを使った歯磨きの実技を30分として計画した。その結果、今まで、給食後の歯磨きを1分程度で終わらせていた子が多かったが、歯磨きのテープにあわせて3分間丁寧に磨く子が表れた。

〈歯科衛生士による歯磨き指導〉



② 保健委員会の活動

○むし歯クイズを実施する。（6月27日児童朝会）

むし歯クイズを作成するにあって図書館司書にむし歯に関する本を10冊程度用意してもらい、その本を元に自分たちで問題を作った。自分たちで問題を作ることを通してむし歯の予防について知識を積極的に得ようとする意識が高まった。

○給食の時間に保健委員が歯みがきを呼びかける。

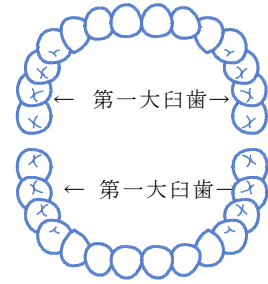
本校は、給食を1・2年生はクラスごとに自教室で食べ、3～6年生はランチルームで食べている。そこで、保健委員が給食時にむし歯予防週間に歯磨きを呼びかけた。

資料 4

～ほけんだよりより抜粋～

はみがき教室の指導の重点

- 1・2年生 歯の王子（第一大臼歯）を大切にしよう
- 3・4年生 むし歯を防ごう
- 5・6年生 歯肉炎を予防しよう



〈むし歯の予防〉

「**歯**」→歯を強くする。バランスのよい食事をする。フッ化物塗布をする。フッ化物入り歯磨きを使う。

「**細菌**」→細菌を増やさない。食べたらずちに歯を磨く。

「**食べ物**」→**ベタ**ついた砂糖でできたおやつを食べない。

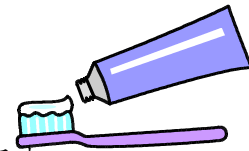
「**時間**」→おやつの時間を決める。

〈第一大臼歯がむし歯になりやすい原因〉

- ①歯のみぞが大きい。
- ②生えてばかりはとても弱い。口の横から磨く**エッヘン**磨きをする。
- ③乳歯の後ろから生えてくるため生えたことに気が付かないことが多い。
- ④生えはじめは背が低いため歯ブラシがあたりにくい。

むし歯は必ず治療しましょう！

むし歯は、こんなふうに行進します

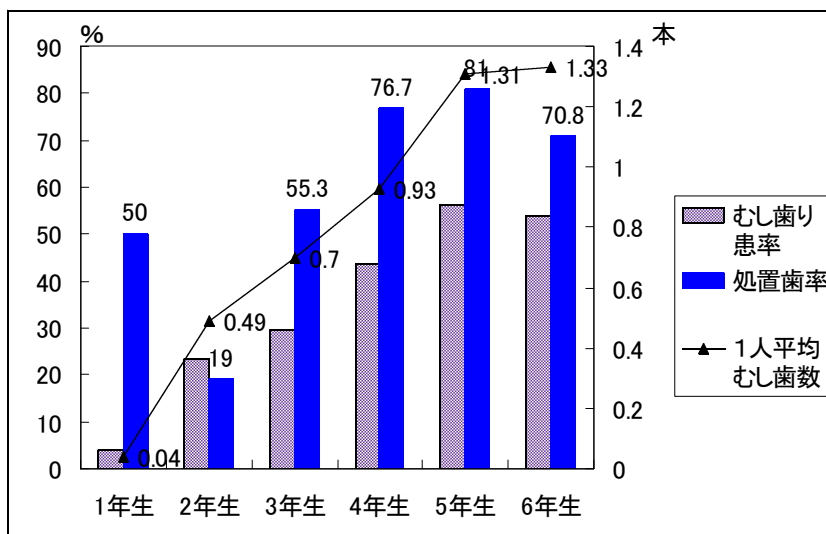


①歯に白いシミのような部分ができます。これが**CO**の状態です。

②エナメル質がむし歯におかされ、小さな穴があきます。痛みは、まだありません。治療はすぐに終わります。

③むし歯は象牙質に進み、冷たいものや甘いものがしみるようになります。むし歯の部分が黒く見えます。

④歯髄まで穴があいてます。夜中に痛くて目がさめたり、がまんできないほど痛みます。



5 結果と考察

(1) 「保健室経営の重点活動表」について

むし歯は、歯質・細菌・食べ物に時間が関係してなる病気である。本校は、家庭環境もさまざまに生活習慣が身に付いていない子どもたちもいる。そこで、むし歯予防の第一歩として、最初に「毎日、歯を磨くという生活習慣を身に付けさせる」ということを目指した。そのため、「むし歯予防に関心をもつ子どもの姿」として、学校で実際に点検できる給食後の歯磨きを毎日続けることを評価した。学校行事の都合で毎日の点検ができないことがあった時、職員室にきて「歯を磨きました。」と報告する子どもが多くなり、95%は給食後に毎日歯を磨くようになった。また、生活アンケートの結果でも、毎日歯を磨くと答えた子どもは80%以上あった。この結果から、毎日、歯を磨くという生活習慣は身に付いてきたと思う。また、「保健室経営の重点活動表」を活用することによって、保健室経営の欠点が明確になり運営活動が多くて、教育活動があまり実践していないということがわかった。今後の保健室経営に生かしたい。

(2) 地域学校保健委員会との連携について

①平成19年度の委員会開催日と議題

- i) 5月22日 地域学校保健運営委員会の開催
第一回地域学校保健委員会の運営について
- ii) 6月28日 第一回地域学校保健委員会の開催
19年度事業計画および重点課題について
- iii) 10月25日 地域学校保健運営委員会の開催
第二回地域学校保健委員会の運営について
- iv) 12月10日 第二回地域学校保健委員会の開催
19年度事業実績（中間）について
- v) 2月21日 第三回地域学校保健委員会の開催
19年度健診結果について
19年度事業報告について

②委員会と養護教諭のかかわりあい方について

第一回地域学校保健運営委員会では、聖籠町養護教諭部会が毎年発行している「聖籠町学校保健安全等統計資料集」を参考資料として聖籠町の健康課題を話し合った。そこで、むし歯予防を中心に事業計画を立てた。このメンバーには、事務局の教育委員と子ども相談員・養護教諭（部長・副部長）・町保健師や町栄養士が集まり、話し合った。そこで、歯科衛生士による歯磨き指導を町内のすべての小・中学校に実施することを事業計画に入れることとした。しかも、こども園の頃からむし歯が非常に多いという実態が全委員に明らかとなり、重点課題をして町全体でむし歯予防を上げることとなった。

第一回地域学校保健委員会で、正式に小・中学校では、歯科衛生士による歯磨き指導を実施していくことになった。また、栄養士による食育を実施する中で低学年でお

やつについて話題にしてもらうことにした。

第二回地域学校保健委員会で、19年度事業計画（中間）について資料の提示をした。本校は、1学期に歯科衛生士による歯磨き指導を実施したが、他校では、学校の事情で2学期に実施するところもあった。そこで、全こども園および全小・中学校において歯科衛生士による歯磨き指導を実施することになった。中学校では、子どもたちの実態から1年生のみ実施することになった。

第三回地域学校保健委員会では、19年度事業実績について及び20年度事業についてを全委員で話し合った。その会で、19年度聖籠町小・中学校のむし歯の健診結果を提示した。その際、本校でのむし歯処置歯率があまり良くないので、町全体ではどうかを調べて歯科受診率も提示した。その結果、こども園で7割・小学校6割弱・中学校2割強と低い結果であった。このことから、次年度も引き続き歯科衛生士による歯磨き指導をこども園および小・中学校で実施することになった。歯の受診率を上げるためにはどうしたらよいかという次年度の課題も見えてきた。

聖籠町の小・中学校では、学校独自の学校保健委員会がない状態だったが、地域で、健康課題を話し合うことで、他の職種との連携が深まり、いろいろな方策をとることができた。健康課題を自校と一緒にすることで学校でも、他の職員から協力が得やすいというメリットもあった。今後も、地域学校保健委員会と連携をとって健康課題を解決していきたい。

参考文献：京都市学校保健会編「OHPによる歯のヘルスガイド」東山書房 昭和58年
文部省編「小学校歯の保健指導の手引」東山書房 平成4年
（財）日本学校保健委員会編「みんなでつくろう「学校保健委員会」のしおり」 平成5年